



# 図書館だより

No.1

2020年5月発行  
伊丹市立笹原中学校  
学校司書 草苅

入学・進級、おめでとうございます。2020年度初回の図書館だよりは、4月7日に発表があった「2020年本屋大賞」特集です。そして、コロナウィルス感染拡大抑止のために日々自粛を頑張っている皆さんに、小説が読めるWebサイトを紹介します。

## 2020年本屋大賞の受賞作発表

| 順位  | 書籍名/作家                                      | 得点     |
|-----|---|--------|
| 大賞  | 『流浪の月』<br>凧良ゆう（著） 東京創元社                     | 432点   |
| 2位  | 『ライオンのおやつ』<br>小川糸（著） ポプラ社                   | 380点   |
| 3位  | 『線は、僕を描く』<br>砥上裕将（著） 講談社                    | 327点   |
| 4位  | 『ノースライト』<br>横山秀夫（著） 新潮社                     | 275.5点 |
| 5位  | 『熱源』<br>川越宗一（著） 文藝春秋                        | 214点   |
| 6位  | 『medium 霊媒探偵城塚翡翠』<br>相沢沙呼（著） 講談社            | 198点   |
| 7位  | 『夏物語』<br>川上未映子（著） 文藝春秋                      | 156点   |
| 8位  | 『ムゲンのi』<br>知念実希人（著） 双葉社                     | 147.5点 |
| 9位  | 『店長がバカすぎて』<br>早見和真（著） 角川春樹事務所               | 105.5点 |
| 10位 | 『むかしむかしあるところに、<br>死体がありました。』<br>青柳碧人（著） 双葉社 | 91.5点  |



### 「ライオンのおやつ」

余命を告げられた雫は、残りの日々を瀬戸内の島のホスピスで過ごすことに決めた。そこでは毎週日曜日、入居者がもう一度食べたい思い出のおやつをリクエストできる「おやつ時間」があった。毎日をもっと大切にしたいくなる物語。

### 「線は、僕を描く」

水墨画という「線」の芸術が、深い悲しみの中に生きる「僕」を救う。やさしく温かく美しい物語。

### 「ノースライト」

一級建築士の青瀬は、信濃追分へ車を走らせていた。Y邸は無人だった。そこに越してきたはずの家族の姿はなく、電話機以外に家具もない。ただ一つ、浅間山を望むように置かれた古ぼけた「タウトの椅子」を除けば……。

### 「ムゲンのi」

若き女医は不思議な出会いに導かれ、人智を超える奇病と事件に挑む。夢幻の世界とそこに秘められた謎とは！？予測不可能な超大作ミステリー。

### 「medium 霊媒探偵城塚翡翠」

心に傷を負った霊能力を持つ少女・翡翠。推理作家として事件を解決してきた、香月。二人が奏でるミステリは、読者の誰もが予測不能！



e-hon hp ・ 本屋大賞 hp

講談社 hp ・ KADOKAWA hp より

好きな物語と出会えるサイト tree

Tree 講談社

検索

<https://tree-novel.com>



「Day to Day」はじまります

### 〈 Day to Day 〉 講談社

50人以上の人気作家が、在宅中の読者に向け、2020年4月1日以降の日本を舞台に小説・エッセイを執筆するリレー連載がスタート。各作品の文字数は1000文字程度で、2~3分で読むことができます。

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1回目 5/1 掲載 | 4月1日が舞台 / 辻村深月 |
| 2回目 5/2 掲載 | 4月2日が舞台 / 西尾維新 |
| 3回目 5/3 掲載 | 4月3日 / 大崎梢     |
| 4回目 ↓      | 4月4日 / 吉川トリコ   |
| 5回目 ↓      | 4月5日 / 有川ひろ    |



<https://yomeruba.com>

【無料公開】おうち時間を有意義に！楽しい&ためになる本 24選

- ・ 夢も恋もホラーも!? ドキドキワクワクの学園モノ
- ・ 毎日少しずつ読める！ 短編連作シリーズ
- ・ 感動の名作 国語から歴史まで。まんがで楽しく学ぼう！
- ・ 読み込んで謎を解け！ 読めばキミも名探偵！



### 「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」

ブレイディみかこ / 著 新潮社

大人の凝り固まった常識を、子どもたちは軽く飛び越えていく。世界の縮図のような「元・底辺中学校」での日常を描く、落涙必至のノンフィクション。

### 「ハーメルンの笛ふき」

サラ・コリン / ぶん ステファン・コリン / ぶん ほるぷ出版  
1284年6月26日ハーメルンで130人の子どもが、きょうに消えてしまった。グリム童話などでよく知られている「ハーメルンの笛ふき男」伝説が、ル・カインの絵で中世の香り高い絵本になりました。

